

河合塾 大学入試情報分析報告会から

先週末、河合塾大宮校で第3回大学入試情報分析報告会が実施されました。君たち130回生も多くが受験した第3回全統マーク模試からみる志望動向を中心に、河合塾による情報分析が報告されました。ここでは、多くの情報の中から、君たちの今後の決断に参考になると思われるものをセレクトしました。明日からは二者面談が始まり、先週提出済みの調査書交付願に基づいて、出願に向けた確認が行われます。是非、参考にしてください。

- 高大接続改革に伴い(2年後の新テスト実施に向けて)、思考力を問う問題の増加など、出題の質の変化が目立ち始めている。センター・国公立二次・私大、いずれも近年の過去問演習に十分に取り組む必要アリ。
- 国公立にこだわる生徒は、地方公立大の動向にも要注目。特に来春から公立大学となる諏訪東京理科大学(工学部 注:経営情報学部は募集停止)は、2018年度入試までは私立大として入試を実施するため、センター利用のA方式と、大学独自試験のみのB方式(前2/1&後3/15)を実施。つまり、一般の国公立大の前期&後期日程以外に、公立大を受けるチャンスが増えるということ(センターボーダーは70%、河合偏差値50程度で、工学院大・東京都市大と同レベルと予測)。
- ここ数年の私立大入学定員厳格化に関連して、2017年入試で入学定員充足率が110%を超過した大学(ex.成城大学133%)は、2018年入試での合格者数を大きく絞り込むことが予想される。
- 国立難関10大(旧七帝大:東京・京都・東北・九州・北海道・大阪・名古屋 + 東工・一橋・神戸)の志望者は前年比101%で堅調。東北大と阪大は109%で要注意。東大は、文科二類の108%以外は落ち着いた動き。理科一&二類は、成績上位層が減少している。
- 一橋大の併願先私大は早稲田・慶應が減少し、立教・明治・中央が急増。学力トップ層も安全志向が顕著。
- 首都圏私大文系の難化を受けて、現役生も浪人生も「早慶上理」から「GMARCH」へ、「GMARCH」から「成成明國武(成蹊・成城・明治学院・國學院・武蔵)」へという弱気な姿勢が垣間見える。私大希望者は、第一志望校へは強気な出願を!
- 早稲田の3理工学部はハイレベルながらも志望動向はいずれも90%以下。強気で!
- 早稲田の文&文化構想はいずれも英語4技能利用型の志望者が激増(304%&226%)。一方で従来型の3教科型は微減(97%&92%)。学力上位層も「英語4技能利用型」に偏っている(ex.英語の平均偏差値の格差は3!)。3教科型は、むしろチャンス拡大か。
- 慶應経済A方式(数学利用方式)は東大・京大からの併願者が激減し、横浜国大からの併願者が増加。河合偏差値65以上の成績上位層(Sランク)が減少しており、チャンス拡大。受験科目は英語・数学(ⅠA・ⅡB)・小論文。上位層は積極的なチャレンジを!
- 慶應SFC(総合政策&環境情報)は、志望動向90%未満。やや易化へ。

- 上智大はTEAP利用に志望者&成績上位者が集中。一方で、一般方式の成績上位者は大きく減少しており(ex.経済54%)、チャンス拡大。
- 東京理科大はグローバル方式の新規導入に伴い、B方式(一般方式)の定員が減少。厳しくなることが予想されるが、東大等の理系トップ層はB方式をあまり受験しないため(一般に、トップ層はセンター利用のA方式で理科大を受験する)、弱気にならないこと。河合偏差値55以上なら、今後の伸び次第で十分にチャンスあり。
- 立教大は私大専願者だけでなく、国立上位大の併願先としても人気で、ハイレベル入試継続。
- 募集人員大幅増となる明治大は、昨年難化した全学部方式で志望者・成績上位者ともに減少。募集人員の増加率を上回る志望者増加となっているのはセンター方式のみ。明治大志望者にはチャンスの年か。
- 中央大は一般、センターともに人気継続。ただし、法学部のセンター方式のみ志望者90%、成績上位者84%となっており、学力上位層の法学部志望者にとっては狙い目。
- 成成明國武では、成蹊大文系学部のみ志望者数89%で、その他は成蹊大理工102%・成城大104%・明治学院大109%・國學院大106%・武蔵大104%と人気堅調。「GMARCH」や「日東駒専」のような、マスコミ受けする派手さはないが、堅実な校風でおススメの大学群。
- 日東駒専では、新設2年目の東洋大情報連携学部(@東京北区赤羽)が志望者数137%で大幅増。ただし併願先上位10校を見ると、昨年2位の法政大と4位の明治大がランク圏外に去るなど、上位者層はむしろ大きく減少している。総合情報学部・理工学部(@埼玉川越)とともに、東洋大のなかでは狙い目学部であることに変化なし。
- 私大入試は一般的に、「AO・推薦 → センター利用 → 一般(全学部→学部別)」の順で実施される。近年の定員超過抑制の施策強化にともなって、多く私大で合格者数の絞り込みが行われている。ただし、大多数の私大で、合格者数が大きく減っているのは「一般(esp.学部別)」に集中している点には要注意。センター利用方式では、従来の「おさえ校を確保する」だけでなく、「挑戦校も狙っていく」強気な姿勢が重要。

今日からはセンターモードで!

不動岡で最後の定期考査も今日で終了です。今日からは受験勉強に専念できますね。センター試験まで、いよいよあと一か月に迫ってきました。国公立or私立を問わず、二次試験のウエイトが高い大学を志望する人も、センター試験を甘く見てはいけません。大学受験では「一次が万事」です。まずは最初の関門であるセンター試験で目標点をクリアすることに全力を傾けましょう。

さて、この時期に何をやるべきか? 入試直前期は、今までに使ってきた参考書・問題集・ノートなどを使って、これまで勉強してきたことの総復習に重点を置くことが鉄則です。過去に受けた模試の見直しも効果絶大です。また、赤本等を使った過去問演習によって応用力とスピードをつけ、その中から自分の弱点を発見したらそこを重点的に補強するといった学習法も有効です。過去問を解くことで出題形式に慣れることもできます。いずれにしても、ここまで来たら徒に新しい参考書・問題集を開くのではなく、使い慣れた本の完全習得にこそ力を注ぎましょう!!

今日からセンター試験までのスケジュールを考えてみましょう! ↓